

安田元久 もとひさ 國史學者。大正七年十月十九日東京生れ、平成八年

一月二十三日歿（一九二八—一九六六）。昭和二十一年東京大學文學部國史學科卒。中世史専攻。北海道大學助教を経て、三十八年學務院大學教授、六十年學長。皇太子の學部委員のゼミ擔當教授で、その卒業論文「中世瀬戸内海水運の「考察」の指導を當つた。自宅の火災により死去。

著書「初期封建制の構成（中世初期における地頭・御家人の本質および武士團の構造）」（昭和二十五年四月一日國土社）「新日本社會史選書」(一)、「日本莊園史概説」（昭和二十一年一月十日吉川弘文館）、「源賴朝—武家政治の創始とその社會的進歩」（昭和二十二年四月十五日弘文堂）「アーネン新書」(一)等。

